

祈り



【三本木の獅子舞の三獅子】
三本木地区の三本木延命地藏尊に奉納されている獅子頭。毎年3月下旬、3頭の動く姿が見られる

第一幕 紡がれてきたもの

生活に密接に関わってきた祈り

四季折々の祭りといった年中行事、一生の節目に営まれる人生儀礼などの風俗習慣、神楽・田楽などの民俗芸能、生活や生業に関する用具・用品の製作技術……地域には人々の日々の生活から生まれ、独自の形で伝承されている文化がある。中でも民俗芸能は、生活と信仰の中で人々が捧げてきた祈りであり、神への感謝のしるし。市内にも創作太鼓などの新しいものを含め、個性豊かな31の芸能が息づいている。

生活のすそ野にいた「畏怖」

獅子舞や神楽など、もとは五穀豊穡や無病息災などを祈願する神事として長く伝えられてきた民俗芸能。現代のように医療技術や食料の供給も安定してい

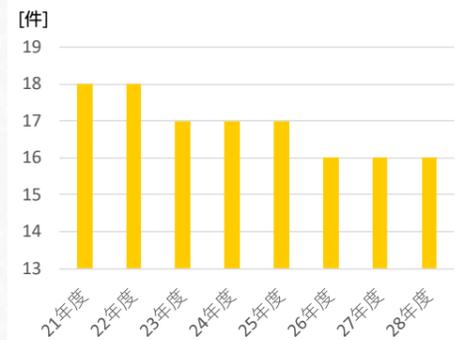
なかつた時代は、病や凶作などは死活問題だった。人々は神に祈りを捧げることでこれらの厄を除けてきた。また、ある時代は娯楽の少ない時代の「楽しみ」の一つでもあっただろう。

時代の流れとともに減りゆく現状

人々の生活の営み・思想・心などの風流(ふうりゅう)を表す貴重な芸能であるが、生活習慣の変化や伝承者の高齢化、後継者の不足といった理由から、年々数を減らしている。形が無いことから、無形民俗文化財と呼ばれる、主に口伝で伝承されるため課題もある。市内でも指定無形民俗文化財の数は年々減少傾向にあり、いずれも担い手の不足が主な原因だ(下グラフ参照)。こうした背景の中、貴重な文化を次代に継承していくことと、保存に取り組む団体も多い。

市内には、計31の郷土芸能があり、うち16は国・県・市いずれかの指定民俗文化財に指定されている(下表)。市内には江戸時代から続く歴史ある民俗芸能のほか、地域の史実や伝説をモチーフに地域おこしの一環として20～30年前に誕生した創作太鼓などの新しいものも存在する。

【市内の指定無形民俗文化財数の推移】



【無形民俗文化財】

四季折々の祭りなどの年中行事、人の一生の節目に営まれる人生儀礼などの風俗習慣、神楽・田楽・風流などの民俗芸能、生活や生業に関する用具・用品の製作技術などが「形」の無い、無形民俗文化財と呼ばれる。

【指定を受けている市内の芸能】 ※現在休止中

名称	指定区分	奉納時期
木綿畑新田の太々神楽	市指定	4月第1日曜
三本木の獅子舞	市指定	3月下旬
高林の獅子舞	市指定	4月第3日曜
百村の百堂念仏舞	国選択	4月29日
木綿畑本田の獅子舞	市指定	4月第4日曜
下厚崎の獅子舞*	市指定	3月第2日曜頃
西富山の獅子舞(1)	市指定	3月第2日曜頃
遅沢ばやし	市指定	
塩原平家獅子舞	県指定	9月中旬
関谷の城鉦舞(2)	県指定	4月29日
上大貫の城鉦舞	県指定	9月上旬
上塩原古代獅子舞	市指定	9月17日
上塩原源太踊り	市指定	9月17日
関谷囃子	市指定	7月第2土曜
嶽山箒根神社梵天上げ(3)	市指定	11月23日
臺沼もちつき	市指定	



(1)西富山の獅子舞



(2)関谷の城鉦舞



(3)嶽山箒根神社梵天上げ

家内安全

五穀豊穡

病、飢饉、たたり、凶作……その昔、人々は災いを恐れた。ときに豊作を祈った。ときに生活の楽しみとして思いを巡らせた。それも全ては生きるため——貧しかった時代、娯楽が発達していなかつた時代、祈りを形に変えるために民俗芸能が生まれた。そうした人々の日々の思いによって紡がれ、現代に息づく民俗芸能は、私たちにとってどのような存在なのだろう。市内の民俗芸能の今を追った。

安産祈願

無病息災

子孫繁栄